

横查情報月報



2020
5050
12月
15日

横浜市衛生研究所

令和2年12月号 目次

【検査結果】

農産物の残留農薬検査結果(令和2年10月)	1
遺伝子組換え食品の検査結果(令和2年度)	4

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告(令和2年11月)	6
----------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(令和2年11月)	10
------------------------------	----

農産物の残留農薬検査結果(令和2年10月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和2年10月に各区福祉保健センター及び健康福祉局食品専門監視班が収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

10月に収去された、こまつな6検体、玄米4検体、かんしょ5検体、だいこんの根及びなす各3検体、にんじん及びばれいしょ各2検体、キャベツ、さといも、はくさい及びピーマン各1検体の計29検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。こまつな4検体、なす及びはくさい各1検体から農薬が検出されました。このうち、こまつなから検出されたトルフェンピラド(0.03ppm)は、基準値(0.01ppm)を超えるものでした。

トルフェンピラドは、こまつなへの使用は認められていないため、農薬を散布する器具に付着していた又は近隣の農産物に使用したものが飛散した等の可能性が考えられます。

トルフェンピラドの概要については、3ページの【農薬解説】を参考にしてください。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 農産物の残留農薬検査結果

(令和2年10月)

農産物	産地	検査検体数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出値(ppm)	基準値(ppm)
かんしょ	横浜市	5	0			
キャベツ	横浜市	1	0			
玄米	横浜市	4	0			
こまつな	横浜市	6	4	① アゾキシストロビン	0.02	15
				シアゾファミド	0.08	15
				② テフルトリン	0.02	0.5
				メタラキシル及びメフェノキサム	0.04	1
				③ クロルフェナピル	0.02	5
				アセタミプリド	0.07	5
				トルフェンピラド	0.03	0.01
				④ フルフェノクスロン	0.22	10
				メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	1
				⑤ シペルメトリン	0.08	5.0
				フルフェノクスロン	0.08	10
さといも	横浜市	1	0			
だいこんの根	横浜市	3	0			
なす	横浜市	3	1	シアゾファミド	0.08	0.5
にんじん	横浜市	2	0			
はくさい	横浜市	1	1	フェンバレレート	0.21	3.0
ばれいしょ	横浜市	2	0			
ピーマン	横浜市	1	0			
合計		29	6			

注) ①～④中括弧()はそれぞれ同一検体からの検出

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
BHC (α, β, γ 及び δ の和)	0.005	○	○	—	○	テフルトリン	0.01	○	○	○	○
DDT (DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	トリアゾホス	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	—	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	トリフルラリン	0.01	○	○	—	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	○	トルフェンピラド	0.01	—	○	○	○
アルドリノ及びディルドリン	0.005	○	○	—	○	ノバルロン	0.01	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	—	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	ピリダベン	0.01	○	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○
エンドスルファン (α 及び β の和)	0.005	○	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○
エンドリン	0.005	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	フィプロニル	0.002	—	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	フェントロチオン	0.01	○	○	○	○
クレゾキシムメチル	0.01	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	—	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○
クロルプロファミ	0.01	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○
クロロクスロン	0.01	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	—	フルバリネート	0.01	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	—	フルリドン	0.01	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○
シラフルオフエン	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	ブromoプロピレート	0.01	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	—	○	—	○
チアメトキサム	0.01	○	○	—	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○

表 2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
ボスカリド	0.01	—	○	○	—	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○
マラチオン	0.01	○	○	○	○	リニュロン	0.01	○	○	○	○
マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	○	○
メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	ルフエヌロン	0.01	—	○	○	○
メチダチオン	0.01	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○

A:玄米 B:こまつな、にんじん、ピーマン C:キャベツ、だいこんの根、なす、はくさい

D:かんしょ、さといも、ばれいしょ

○:実施、—:実施せず

DDTは*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT及び*p,p'*-DDTの和

【農薬解説】

トルフェンピラド

『ハチハチ』等の商品名で販売されている殺虫剤で、野菜、茶、果樹等に使用されます。広範囲の害虫に対して速効的に殺虫効果を示し、防除が難しいコナガ、アブラムシ類等にも効果があります。

キャベツ、だいこん、トマト、はくさい等の農産物に適用がありますが、今回検出されたこまつなやチンゲン菜等の軟弱野菜に使用すると、それらに対し薬害が生じるおそれがあるため適用はありません。

トルフェンピラドのADI(一日摂取許容量:人が一生涯にわたって毎日食べ続けたとしても、健康に悪影響を与えないと考えられる量)は0.0056mg/kg体重/日です。今回こまつなから検出された値(0.03ppm)で換算すると、体重50kgの人が、このこまつなを洗わずに毎日一生涯9.3kg食べ続けても、健康への影響はないと考えられます。

今年度実施した検査において、トマト(市内産)からも0.16ppm検出されました(基準値:2ppm)。

※参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2016年版
- ・食品安全委員会ホームページ

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

遺伝子組換え食品の検査結果(令和2年度)

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売等が可能になります。

横浜市では平成13年度から、安全性が未審査の組換え遺伝子が市内に流通する食品に混入していないか、また、適正な表示が行われているかを検査し確認しています。

今回は、令和2年4月と9月に、健康福祉局食品専門監視班が収去した「遺伝子組換え」の表示がない食品30検体の検査結果を報告します。

1 遺伝子組換えトウモロコシの定性検査

トウモロコシ加工品18検体について、安全性未審査の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)^{*1}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体も不検出となり、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
コーンスナック菓子	日本(9)、ギリシャ(1) 台湾(1)、ベルギー(1)	12	0
コーンスープ(液体・粉末)	日本	4	0
とうもろこし粉	日本	1	0
タコシエル	オーストラリア	1	0
計		18	0

^{*1} 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

2 遺伝子組換えコメの定性検査

コメ加工品10検体について、安全性未審査の遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI)^{*2}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体も不検出となり、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Bt、NNBt、CpTI)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
穀類加工品 (ビーフン、ライスペーパー等)	タイ(1)、台湾(1)、 ベトナム(2)	4	0
米粉、餅	日本	6	0
計		10	0

^{*2} いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

3 遺伝子組換えダイズの定量検査

ダイズ穀粒2検体について、安全性審査済みの遺伝子組換えダイズ3品種(RRS、LLS、RRS2)^{*3}の定量検査を行いました。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下^{*4}であり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換えダイズ(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
ダイズ穀粒	カナダ	2	0
計		2	0

^{*3} いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだダイズの品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

^{*4} 分別生産流通管理^{*5}が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、ダイズでは5%以下の意図せざる混入が認められています。

^{*5} 遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で相互に混入が起こらないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。分別生産流通管理が行われた遺伝子組換えダイズを原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示、分別生産流通管理が行われていない場合は「遺伝子組換え不分別」等の表示が必要です(義務表示)。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和2年11月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。

◇ 全数把握の対象

〈11月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	6件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件
E型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	6件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が2件、O26が1件、O血清群不明が1件、O128が1件、O91が1件の報告がありました。
- E型肝炎: 2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- レジオネラ症: 肺炎型2件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路感染地域等不明です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が3件ありました。1件は性的接触による感染が推定されています。
- ウイルス性肝炎: ワクチン接種歴不明のB型肝炎の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告があり、いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件、B群1件の報告がありました。そのうち1件は創傷感染が推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 80歳代の報告が2件(ワクチン接種歴不明1件、ワクチン接種歴1回あり1件)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 梅毒: 無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件の報告がありました。性別が男性3件、女性3件で、感染経路は性的接触による感染が3件(異性間2件、詳細不明1件)、不明3件でした。
- 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される60歳代の報告が1件ありました。

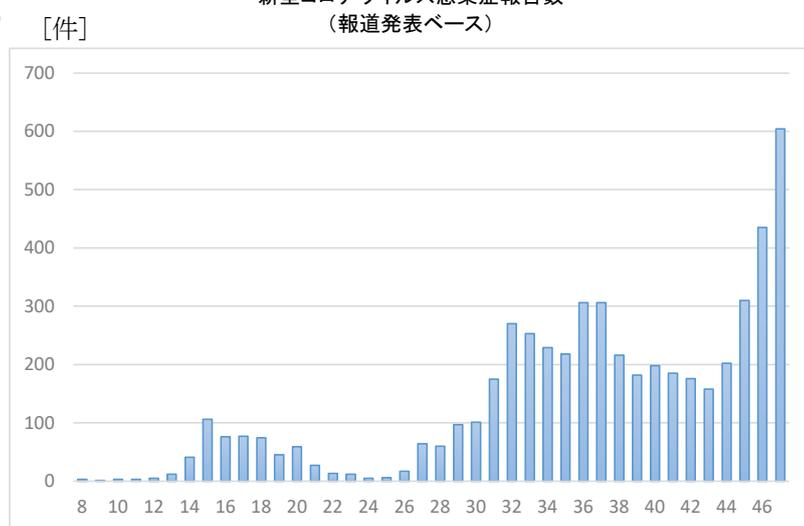
◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第43週～第47週に横浜市から報道発表のありました症例は1709件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)

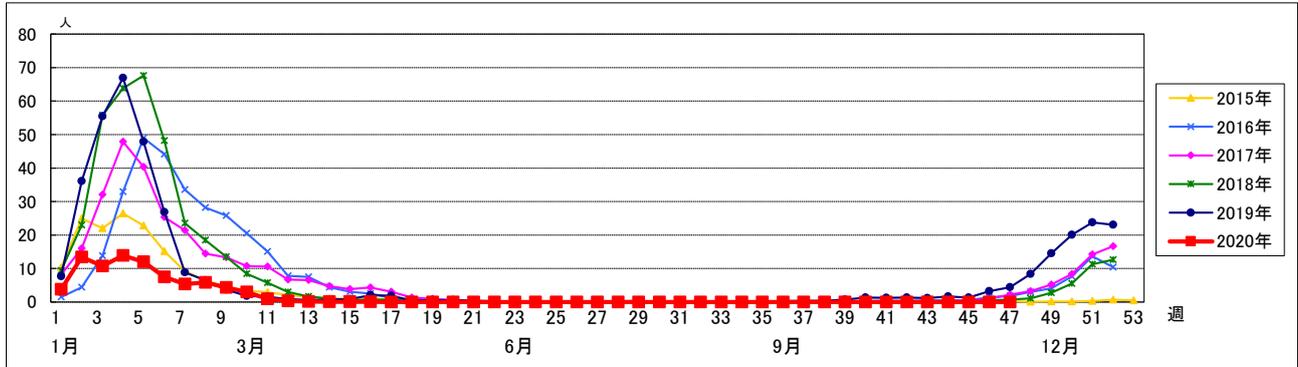


[週]

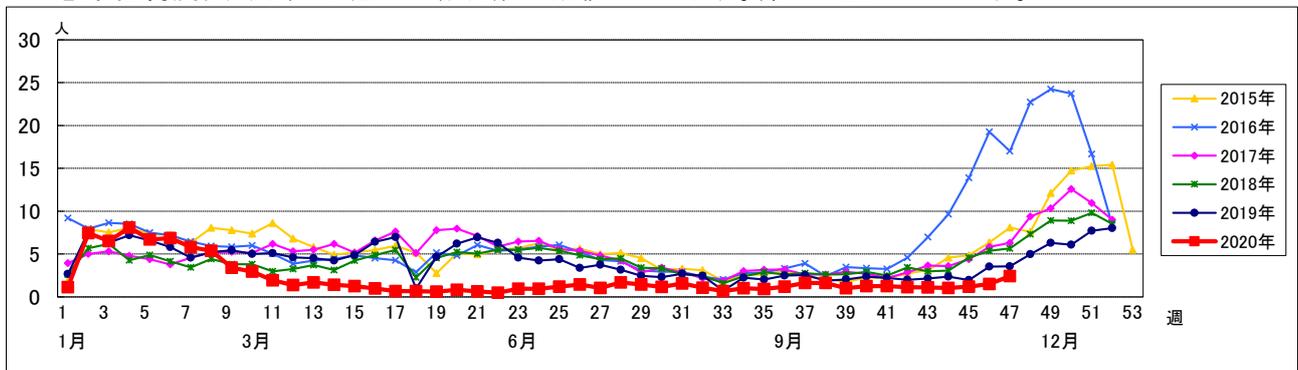
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第43週	10月19日～10月25日
第44週	10月26日～11月1日
第45週	11月2日～11月8日
第46週	11月9日～11月15日
第47週	11月16日～11月22日

1 インフルエンザ: 昨年は第40週で流行開始の目安(1.00)を上回っていましたが、今年は例年より低めの報告数で推移しており、第47週は0.01です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第47週は2.42です。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:23件	女性:13件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:0件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	...
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.33	0.00	...
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	...
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	...
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00	...

...:未報告

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月26日から11月22日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、内科定点5件、眼科定点4件、基幹定点1件で、定点外医療機関からは3件でした。

ライノウイルス遺伝子7件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果11月期(2020年第44週～第47週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
ライノ	- 3	- 4
合計	- 3	- 4

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

11月期(2020年第44週～第47週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、多剤耐性緑膿菌1件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌1件、黄色ブドウ球菌1件、ノカルジア1件、非定点から過粘稠性クレブジエラ2件、レンサ球菌3件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌5件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、劇症型溶血性レンサ球菌2件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からリケッチア2件、レプトスピラ1件、非定点からボレリア4件の検査依頼がありました。保健所からは、レジオネラ2件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第44週～第47週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
	多剤耐性緑膿菌	1	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (1)	
	基幹定点 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
	黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
	ノカルジア	1	<i>Nocardia abscessus</i> (1)	
	非定点	過粘稠性クレブジエラ	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)
		レンサ球菌	3	<i>Streptococcus anginosus</i> (3)
		腸管出血性大腸菌	5	O157 : H7 VT2 (2)、 O26 : H11 VT1 (1)、 OUT : H45 VT2 (1)、 O177 : H- VT2 (1)
	保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 TUT (2)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
医療機関	血清(1)・ 血しょう(1)	リケッチア	2	ツツガムシ病リケッチア(nested-PCR)陰性(2) 紅斑熱群リケッチア(nested-PCR)陰性(2)
		レプトスピラ	1	抗レプトスピラ抗体 血清型 Hebdomadis 陽性(1)
	血清(2)・ 血しょう(1)・ 全血(1)	ボレリア	4	ライム病ボレリア(リアルタイムPCR)陰性(2)、 回帰熱ボレリア(リアルタイムPCR)陰性(2)、 抗ボレリア抗体(IgG)陰性(2)、 抗ボレリア抗体(IgM)陰性(2)
保健所	喀痰	レジオネラ	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、不検出(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和2年11月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和2年11月の総アクセス数は、321,298件でした。前月に比べ9.0%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*89.3%、保健情報5.5%、検査情報月報1.8%、食品衛生0.8%、生活環境衛生0.6%、薬事0.5%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

11月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、3位は、「トキソプラズマ症について」でした。6位には、「インフルエンザワクチンについて」が入っています。

表1 令和2年11月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	197,026
2	ぎょう虫(蟯虫)症について	5,812
3	トキソプラズマ症について	4,383
4	大麻(マリファナ)について	3,499
5	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,353
6	インフルエンザワクチンについて	3,083
7	衛生研究所トップページ	2,742
8	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	2,669
9	リステリア症について	2,646
10	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	2,542

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和2年11月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 令和2年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
インフルエンザ予防接種について	1
ホームページの記載内容について	1

2 追加・更新記事

令和2年11月に追加・更新した主な記事は、3件でした(表3)。

表3 令和2年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月 2日	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載
	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第11回)	更新
11月17日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第12回)	更新

【 感染症・疫学情報課 】